富山県立中央病院
やさしさ・信頼・安心

地域連携室だより

令和4年7月号
No.241

〒930-8550　富山市西長江2-2-78 | TEL 076 (424) 1531 | https://www.tch.pref.toyama.jp/

向暑の候、皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
新型コロナウイルスの感染拡大防止にご協力いただき感謝致します。
今月の掲載は、小児外科、内分泌・代謝内科、ストーマ、排泄（失禁）外来です。

診療科の紹介　小児外科

小児外科スタッフ
左より　酒井（正）部長、岡田部長、山崎部長、國香看護師

外来受診表

	月	火	水	木	金
1診	山崎	岡田	山崎	酒井（正）	岡田

◆診療体制、スタッフ紹介

平成24年4月1日付で富山県立中央病院に小児外科が開設されてから、もう丸10年経過し、11年目に入りました。

現在の外来担当は下記の表の通りで、岡田安弘部長（日本小児外科学会指導医）と酒井正人部長（日本小児外科学会専門医）、山崎徹部長（日本小児外科学会専門医）の医師3名と、國香彩乃外来担当看護師1名の体制で診療を行っております。

また緊急の患者さんのご紹介やご相談に関しては、外来の時間帯以外でも可能な限り対応させて頂いております。現在、小児外科医が3人体制で診療しており、ご紹介いただいた患児への迅速な対応を心掛けたいと考えております。

◆ 診療の内容

当科では、年間230症例前後の全身麻酔下手術を行っております。

また富山県立中央病院は、富山県内唯一の総合周産期母子医療センターに指定されているため、小児外科も周産期医療チームの一員として、年間10症例前後の新生児・未熟児の手術を担当しております。それ以外にも胎児期に診断された水腎症や、小児の反復する尿路感染症などの小児泌尿器科疾患に関しては、広く県内の小児科・泌尿器科の先生方からご紹介を頂いております。

以下、当科が担当している具体的な領域・疾患としては、

未熟児・新生児外科：前述のごとく県内で唯一の総合周産期母子医療センターである当院において、小児外科は胎児診断された新生児の外科疾患（先天性腸閉鎖症、鎖肛、腹壁破裂等）や未熟児の穿孔性腹膜炎などの手術を担当しております。

小児腹部外科：先天性胆道閉鎖症やHirschsprung氏病といった小児外科特有の疾患から、小児の鼠径ヘルニアや急性虫垂炎といった疾患まで幅広く診療を行っており、最近では内視鏡下の手術にも積極的に取り組んでいます。

小児胸部外科：症例はあまり多くはありませんが、漏斗胸のような胸郭の疾患や先天性嚢胞性肺疾患等の肺疾患の手術を当院呼吸器外科の先生方と協力して行っております。

小児泌尿器科：膀胱尿管逆流症や水腎症、尿道下裂といった小児泌尿器科疾患に対する手術や、小児に発生した尿路結石の治療などを当院泌尿器科の先生方と連携を取りながら行っております。

◆最近の話題、これからの抱負

《当科10年における小児外傷性脾損傷症例》

小児腹部外傷では、その解剖学的特徴から成人よりも腹腔内臓器に外力が伝わり易い。その中でも外傷性脾損傷は臓器損傷の中で最も多く、比較的軽度な外圧においても予想しえぬ重度の損傷を引き起こすことがあります。治療方針として、可能な限り脾臓摘出術を避けることが推奨されています。それは、脾臓の免疫能獲得機構や脾臓摘出後重症感染症（以下、OPSI）の観点からです。小児のOPSIの発症率は成人の約2.5倍で、脾摘後には肺炎球菌ワクチン接種が推奨されています。

以前の外傷性脾損傷の治療方針は手術療法が主でした。近年、血管内治療（以下、IVR）の進歩や多列検出器型CT（MDCT）などの画像診断の向上により、経カテーテル的動脈塞栓術（以下、TAE）や保存的治療などの非手術療法により救命できる症例が増加し、救命率も上昇してきています。もちろん、脾臓の損傷程度や循環動態によって必要ならば、damage control surgeryとしての脾臓摘出術を尻込みしてはいけません。

さて、当科でこの10年間に経験した、小児外傷性脾損傷をご紹介します。

当科が当院で開設されてからの10年間で、15歳以下の小児外傷性脾損傷は6例でした（表1）。6から13歳の男児3例、女児3例で、他院からの救急車搬送が3例、ドクターヘリ搬送が1例でした。受傷機転として、交通外傷は3例（車内2例、車外1例）、転倒1例、転落2例でした。日本外傷学会脾損傷分類2008は、I1例、II1例、IIIa2例、IIIb2例でした。治療として、5例が

症例	性別	受診方法	受傷機転	脾損傷分類	脾臓以外の損傷臓器	合併損傷分類	その他の合併損傷	FAST	輸血	治療	来院時Hb(mg/dl)	在院日数（日）	受傷月（月）
1	F	ウォークイン	転倒	I	（−）		（−）	（−）	（−）	保存的治療	12.9	15	4
2	M	他院から救急車	交通外傷（車内）	IIIb	左腎、肝、左肺、左副腎	腎（IIIb）、肝（IIIb）、肺（Ia）	（−）	陽性	有（FFP）	保存的治療	9.4	23	7
3	F	ウォークイン	交通外傷（車内）	II	（−）		（−）	陰性	（−）	保存的治療	12.6	7	11
4	M	他院から救急車	転倒	II-IIIa	（−）		（−）	陽性	（−）	保存的治療	12.7	12	3
5	F	他院から救急車	転倒（遊具）	IIIb	（−）		（−）	陽性		有（RCC、FFP）	10.5⇒8.1	12	3
6	M	ドクヘリ	交通外傷（車内）	III	左肺、右副腎	肺（IIa）	左側頭骨骨折、左複数肋骨骨折	陰性⇒陽性	（−）	保存的治療	12.8	13	4

表1 当科における小児外傷性脾損傷例

保存的治療、1例でTAEを施行しました。症例数が少なく、統計的に処理すると否定されるかもしれませんが、受傷月で興味深い点があります。交通外傷は、4、7、11月と季節は、ばらばらですが、転倒・転落は、3、4月です。富山の子供たちは、雪で寒く曇天で薄暗い冬から解き放たれ、暖かく気持ちの良い春となりウキウキして側溝で転倒し、ジャングルジムで転落するのかもしれません。

ここで、TAEを施行した症例5を取り上げます。ジャングルジムで60㎝の高さから転落し、横棒で腹部を強打し、動けなくなり、近医を受診しました。顔面蒼白で、ショック状態にて、救急車にて当院緊急搬送となりました。来院時より、循環動態異常、出血性ショック重症度分類classⅢで、FAST陽性で、腹部造影CT検査にて、大量血性腹水貯留、脾臓挫滅部より造影剤血管外漏出を認めました（図1）。輸液減量で血圧低下し、更にHb増悪を認めるため、脾臓摘出術にコンバートできるよう、手術室の準備を進めた上で、気管挿管し、人工呼吸器管理とし、IVR医が、血管造影検査、脾動脈塞栓術を施行して、止血に至りました（図2）。術後経過良好で、術後11病日に退院しました。術後3か月の腹部造影CT検査で、脾梗塞部位は認めましたが、脾臓実質の造影部位を確認できました（図3）。ショック状態であり、手術療法、脾摘術か、非手術療法として、TAEか、非常に難しい判断ではありましたが、救急科医、放射線診断科医、麻酔科医、小児外科医、さらに血管造影室、手術室との連携で最善の治療を行うことができました。何より、ご紹介下さった医院の先生の速やかで的確な「返球」があり、「チーム県中」一丸で治療し、救命した小さな命でした。まさに「チーム富山」の大金星でした。

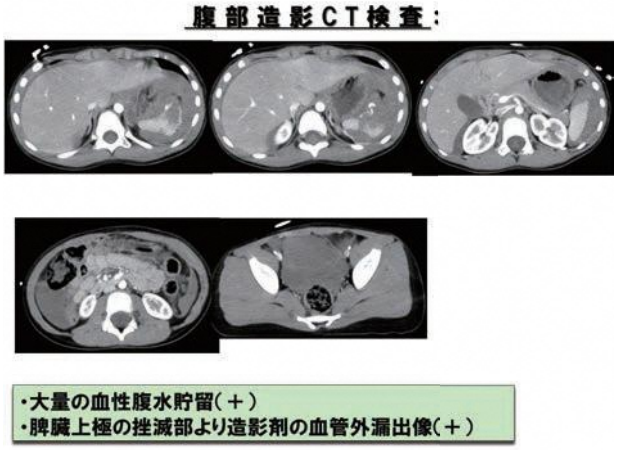

図1　腹部造影 CT 検査（当院搬送後）

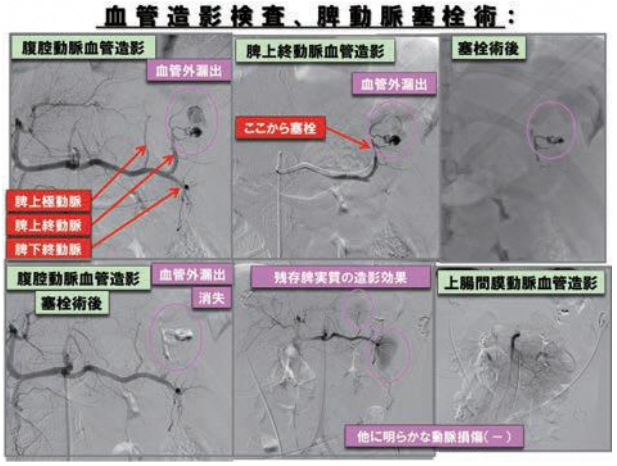

図2　血管造影検査、脾動脈塞栓術（TAE）

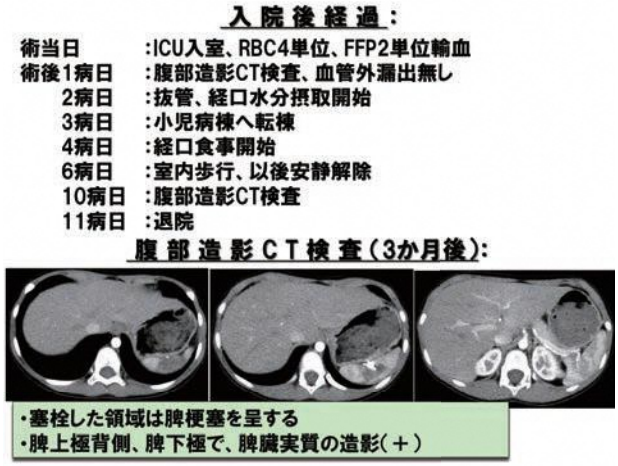

図3　入院後経過、腹部造影 CT 検査（術後 3 か月後）

これからの10年間も（勿論、さらにそれからもですが）、今までの10年間以上に、「富山で生まれた子供たちを富山の医療で治してあげたい」をモットーに、多くの先生方にご指導を賜りながら、小児外科医療を充実させていきたいと考えております。これからも何卒よろしくお願いいたします。

（文責：山崎　徹）

内分泌・代謝内科のご案内

専門領域と治療内容の特徴

当科では「糖尿病チーム医療委員会」を中心とした多職種および診療科連携を実践しております。糖尿病専門医、糖尿病看護認定看護師をはじめ日本糖尿病療養指導士の資格を有する看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師が、外来糖尿病教育、教育入院や他疾患で入院中の糖尿病患者の血糖管理に取り組んでおります。新型コロナ感染拡大を鑑み糖尿病教室はしばらく中止となっておりましたが、2022 年 4 月～教育効果を高めた糖尿病教室として新しく生まれかわり再開しております。また、教育後の患者さんには年1回の糖尿病合併症外来フォローアップを通して、地域の先生方と一緒に重症化予防にも取り組んでおります。

甲状腺疾患に関しては機能異常だけでなく、甲状腺腫瘍に対するエコーガイド下甲状腺穿刺吸引細胞診も数多く施行しております。甲状腺腫瘍のフォローアップに関しても引き続き当科外来へご紹介をよろしくお願いいたします。また、その他の内分泌疾患を疑う所見や症状に関しても、当科にご紹介いただければ、精査加療させていただきます。初診日は月曜日、火曜日です。地域連携室を通して事前予約された方を優先的に診療しておりますので、緊急以外は事前予約をお願い申し上げます。

〈お知らせ〉

「糖尿病療養指導のための講習会（毎月第 4 金曜日　午後 5 時半から 7 時）」も、2022 年 4 月～再開しております。糖尿病療養指導士認定更新のための研修会〈第 2 群〉として 0.5 単位取得可能です。県内の感染状況を見極めながらご参加いただければ幸いです。詳しくは当院　内分泌・代謝内科外来にお問い合わせください。

内分泌・代謝内科　医師紹介

経験豊富なスタッフが万全な体制で治療をサポート

部長

吉澤（よしざわ）　都（みやこ）

【患者さんへの一言】患者さん中心の医療を心がけます
【自身の専門性（手技他）アピール】内分泌・代謝疾患全般
【専門医資格】日本内科学会認定内科医、総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医・研修指導医、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医・指導医

副医長

米澤（よねざわ）　淳（まこと）

【患者さんへの一言】丁寧な説明を心がけています
【自身の専門性（手技他）アピール】内分泌代謝疾患全般、糖尿病
【専門医資格】日本内科学会認定内科医、日本糖尿病学会専門医、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医

副医長

中田（なかだ）　竜介（りゅうすけ）

【患者さんへの一言】　今年で3年目の勤務になりますので、より一層頑張ります
【自身の専門性（手技他）アピール】糖尿病全般、内分泌疾患全般、肥満治療
【専門医資格】日本内科学会認定内科医

菊島（きくしま）　明浩（あきひろ）

【患者さんへの一言】患者さんに寄り添った診療をしていきます
【自身の専門性（手技他）アピール】内分泌・代謝疾患全般

外来診療担当表

	月	火	水	木	金
初診	吉澤	米澤			
再診①	中田	中田	米澤	吉澤	吉澤
再診②		菊島	中田	米澤	米澤

看護専門外来

ストーマ、排泄（失禁）外来

皮膚・排泄ケア認定看護師　　志田麻依子主任（左）　藤元岬主任（右）

ストーマ（人工肛門や人工膀胱など）は、病気の根治的治療のほか、術後の縫合不全や症状緩和を目的としてつくられ、永久的に保有する場合もあれば一時的な場合もあります。ストーマ造設を告げられた時は、病気そのものの不安とともにストーマができることに大きなショックを受ける方もいます。ストーマ外来では、日常生活や袋の交換方法などストーマについての情報提供を行うとともに、患者さんのお話を聞き、不安の軽減に努めています。手術後は、ストーマのセルフケアを獲得し退院となるわけですが、これまでとは異なる日常生活に戸惑い、予期せぬ出来事に悩んだり落ち込んだりすることもあり、患者さんからは、「誰にも相談できずに、どうすればよいか分からなかった。」という思いを聞くことがしばしばあります。ストーマをつくった患者さんにとって、自分では解決できないことを相談したり、知らない情報を得たり、精神的な支えとなる存在が必要です。術後は、定期的にストーマ外来に通院していただき、サポートを行っています。当院以外で手術をされた方でも、装具が合わない、漏れるなどの相談もお受けしています。また、便・尿失禁の排泄障害で悩んだり、スキントラブルで困っておられる方の排泄管理と精神的サポートを実施しています。

現在、ストーマ外来を担当する皮膚・排泄ケア認定看護師が2名おります。患者さんが安心できる場所でありたいと思っておりますので、ストーマや失禁で困ったことがある方はぜひご相談ください。

ご利用概要

対　象　・当院通院患者で、医師からの依頼又は相談のある患者　・他院通院・入院中で当院受診希望患者
診察日　ストーマ外来：月・木曜日　排泄（失禁）外来：月～金
予　約　予約制（1人30分）
場　所　外来診療棟2A
担　当　皮膚・排泄ケア認定看護師　志田、藤元

お知らせ

1 連携談話会・症例検討会のご案内

8月開催予定

★第158回 富山県立中央病院消化器キャンサーボード
日 時：令和4年8月4日（木）18時から
場 所：富山県立中央病院　5階ホール

★中央病院病診連携談話会
日 時：令和4年8月8日（月）19時から
場 所：富山県立中央病院　5階ホール

★糖尿病療養指導のための講習会
日 時：令和4年8月26日（金）17時30分から
場 所：富山県立中央病院　5階ホール
講 義：「糖尿病急性合併症の病態と治療」
問題演習：「血糖値に影響する因子」
療養指導の実際：「肥満を伴う糖尿病患者の食事指導」

9月開催予定

★第159回 富山県立中央病院消化器キャンサーボード
日 時：令和4年9月1日（木）17時から（時間変更になっています）
場 所：富山県立中央病院　5階ホール

富山県皮膚科病診連携症例検討会（二木会）
日 時：令和4年9月8日（木）19時から
場 所：富山県立中央病院　中央病棟B 1階会議室

★中央病院病診連携談話会
日 時：令和4年9月12日（月）19時から
場 所：富山県立中央病院　5階ホール

胸部レントゲンカンファレンス
日 時：令和4年9月15日（木）19時から
場 所：富山県立中央病院　中央病棟B 1階会議室

★第118回 漢方症例検討会
日 時：令和4年9月16日（月）19時から
場 所：富山県立中央病院　中央病棟B 1階会議室

★糖尿病療養指導のための講習会
日 時：令和4年9月16日（金）17時30分から
場 所：富山県立中央病院　5階ホール
講 義：「経口血糖降下薬 Up Date」
問題演習：「がん治療と糖尿病」
療養指導の実際：「血糖自己測定値とアルゴリズムの考え方」

★…医療機関スタッフの方々の公開学習の場としています。お気軽にご参加ください。

換気、手指消毒、ソーシャルディスタンス確保、
環境整備を徹底して実施いたします。

編集後記

晴天が続き、厚さが厳しい今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。例年より早く梅雨が明け、あっという間に夏がやってきましたね。急な暑さに体がなれず体調を崩された方もおられたのではないでしょうか。私は涼を求め、上市町にある大岩山の素麺を食べに行ってきました。いつの間にかメニューも増え、目移りしましたが大道の素麺とおにぎり、白玉団子をいただきました。毎年大岩の素麺を食べると今年も夏が来たなと感じます。

今後も暑い日が続きますが皆様のご健康を心よりお祈りいたします。今度とも何卒よろしくお願いいたします。

（地域連携室保健師　鹿島 桃子）

「地域連携室だより」の送付を希望されない場合は
下記までご連絡下さい。

富山県立中央病院
地域連携室

○代表電話　076（424）1531／内線3177
○予約専用　076（491）7160
○FAX　076（491）7109

2 8月の外来診療に関する医師不在日

※不在日につきましては、代わりの医師が対応いたします。

科名	医師名	不在日
腎臓・高血圧内科	牧石医師	10日(水)
循環器内科	臼田医師	16日(火)
	丸山医師	5日(金)、15日(月)
血液内科	近藤医師	9日(火)
呼吸器内科	谷口医師	16日(火)
内分泌・代謝内科	吉澤医師	12日(金)、15日(月)、26日(金)
リウマチ・和漢診療科	藤永医師	12日(金)、15日(月)、16日(火)、29日(月)
精神科	野原医師	24日(水)午前
	瀬尾医師	15日(月)、17日(水)、19日(金)
	大口医師	22日(月)、23日(火)、26日(金)午前
呼吸器外科	川向医師	12日(金)、16日(火)
心臓血管外科	上田医師	29日(月)、31日(水)
	関医師	17日(水)、18日(木)
	大高医師	22日(月)、26日(金)
小児科	藤田医師	2日(火)
外科	前田医師	15日(月)、17日(水)
	加治医師	16日(火)
	吉川医師	12日(金)
	天谷医師	8日(月)
	倉田医師	22日(月)
整形外科	中村医師	8日(月)、9日(火)
	丸箸医師	12日(金)、16日(火)、17日(水)
	笹川医師	9日(火)、10日(水)
	香川医師	12日(金)、15日(月)
	相川医師	23日(火)、25日(木)
形成外科	池田医師	5日(金)
脳神経外科	青木医師	12日(金)
	藤原医師	15日(月)
小児外科	山崎医師	8日(月)、10日(水)
産婦人科	谷村医師	5日(金)
	南医師	12日(金)
	吉越医師	23日(火)
泌尿器科	島医師	15日(月)、22日(月)
	武澤医師	8日(月)、9日(火)、15日(月)、22日(月)
眼科	山田医師	5日(金)、16日(火)、23日(火)午前、31日(水)
	西野医師	10日(水)、23日(火)、24日(水)、26日(金)、29日(月)～31日(水)
耳鼻いんこう科	浦本医師	12日(金)、26日(金)
放射線診断科	出町医師	12日(金)
	阿保医師	15日(月)、18日(木)、19日(金)
	望月医師	2日(火)～5日(金)、9日(火)
	齊藤医師	12日(金)
歯科口腔外科	小島歯科医師	22日(月)、29日(月)
	倉部歯科医師	10日(水)、29日(月)

3 受診にあたってのお願い

日頃より、地域連携室業務において多大なるご協力をいただき感謝申し上げます。特に紹介・逆紹介においては、かかりつけ医の先生方との連携が重要と考えております。

つきましては、初診受診の際、突然紹介状をお待ちになり受診されても予約枠が一杯で後日の予約を取り、お帰り頂くことがあります。ご面倒でも、受診前に地域連携室にお電話いただき予約をお取り頂くようお願い申し上げます。

がん診療に関する相談支援センター
ホームページアドレス　https://www.tch.pref.toyama.jp/

地域連携室（医療機関向け）電話076－424－1531／内線3177
メールアドレス　chiikirenkei@pref.toyama.lg.jp

医療相談室（患者・ご家族向け）電話076－424－1531／内線9130・9307
メールアドレス　kango@pref.toyama.lg.jp